

02 117
RSW

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2002年 7月26日

出 願 番 号
Application Number:

特願2002-218740

[ST.10/C]:

[JP2002-218740]

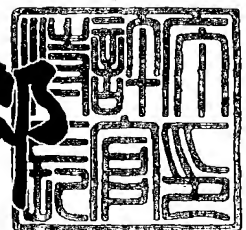
出 願 人
Applicant(s):

日本アイ・ビー・エム株式会社

2003年 3月 7日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3014324

【書類名】 特許願

【整理番号】 JP9020117

【提出日】 平成14年 7月26日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G06F 9/44

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県大和市下鶴間1623番地14 日本アイ・ビー・エム株式会社 大和事業所内

【氏名】 槌谷 一

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県大和市下鶴間1623番地14 日本アイ・ビー・エム株式会社 大和事業所内

【氏名】 村上 佐枝子

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県大和市下鶴間1623番地14 日本アイ・ビー・エム株式会社 大和事業所内

【氏名】 豊島 浩文

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県大和市下鶴間1623番地14 日本アイ・ビー・エム株式会社 大和事業所内

【氏名】 日高 由布子

【特許出願人】

【識別番号】 390009531

【氏名又は名称】 インターナショナル・ビジネス・マシーンス・コーポレーション

【代理人】

【識別番号】 100086243

【弁理士】

【氏名又は名称】 坂口 博

【代理人】

【識別番号】 100091568

【弁理士】

【氏名又は名称】 市位 嘉宏

【代理人】

【識別番号】 100108501

【弁理士】

【氏名又は名称】 上野 剛史

【復代理人】

【識別番号】 100104880

【弁理士】

【氏名又は名称】 古部 次郎

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 081504

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9706050

【包括委任状番号】 9704733

【包括委任状番号】 0004480

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報収集システム、アプリケーションサーバ、情報収集方法、およびプログラム

【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数のデータファイルをネットワークを介して取得する取得手段と、

前記取得手段により取得された複数のデータファイルに対し、所定の切り出しルールと用語の関係記述であるオントロジとを利用して解析する解析手段と、

前記解析手段による解析に基づいて、前記複数のデータファイルから必要な情報を抽出する抽出手段と

を含む情報収集システム。

【請求項2】 前記取得手段は、ユーザの興味に基づくURL (Uniform Resource Locators) を用いてHTML (Hypertext Markup Language) で書かれた文書を取得し、

前記解析手段は、前記特定のタグ情報を用いて前記文書を解析することを特徴とする請求項1記載の情報収集システム。

【請求項3】 前記解析手段による解析に用いられる前記所定の切り出しルールは、カタログおよび/または仕様情報を構成する特徴をルール化したものであることを特徴とする請求項1記載の情報収集システム。

【請求項4】 前記解析手段は、用語の異なる複数のデータファイルに対し、オントロジを利用して横断的に内容を解析することを特徴とする請求項1記載の情報収集システム。

【請求項5】 前記抽出手段により抽出された情報を再構築し、当該情報の中から同値関係をまとめてユーザ端末に提供する提供手段と
を更に含む請求項1記載の情報収集システム。

【請求項6】 対象ごとに異なったオントロジを格納するオントロジ格納手段を更に備え、

前記解析手段は、前記オントロジ格納手段から所定のオントロジを読み出して解析を行うことを特徴とする請求項1記載の情報収集システム。

【請求項 7】 ユーザの興味に関する情報を受信するユーザ要求受信部と、
前記ユーザ要求受信部より受信した前記情報に基づいて、複数のサイトから HTML 文書を取得する HTML 取得部と、

前記ユーザ要求受信部より受信した前記情報に基づいてオントロジを読み出し、
語彙情報を得る語彙情報処理機構と、

前記 HTML 取得部から取得した前記 HTML 文書に対し、前記語彙情報処理機構から提供される前記語彙情報に基づき、当該 HTML 文書のタグを頼りに抽出データオブジェクトを取り出す抽出位置情報特定部と

を含むアプリケーションサーバ。

【請求項 8】 前記 HTML 取得部から取得した前記 HTML 文書に対して切り出し処理を施すための切り出しルールを提供する切り出しルール処理機構を更に備え、

前記抽出位置情報特定部は、前記切り出しルール処理機構から提供される切り出しルールに基づいて抽出データオブジェクトを取り出すことを特徴とする請求項 7 記載のアプリケーションサーバ。

【請求項 9】 公理ルールに基づいて推論演算を実行する推論処理機構を更に備え、

前記抽出位置情報特定部は、前記推論処理機構にて実行される推論演算に基づいて抽出データオブジェクトを取り出すことを特徴とする請求項 7 記載のアプリケーションサーバ。

【請求項 10】 前記抽出位置情報特定部によって取り出された複数の抽出データオブジェクトに対して合算処理を施す情報整理集約部と、

前記情報整理集約部による合算処理の結果に基づいてテーブルおよび/またはリストを生成する合算結果オブジェクト生成部と、

前記合算結果オブジェクト生成部により生成された合算結果オブジェクトを送信するユーザ要求送信部とを更に備えたことを特徴とする請求項 7 記載のアプリケーションサーバ。

【請求項 11】 ネットワークに接続されたコンピュータにおいて、
複数のデータファイルをネットワークを介して取得するステップと、

取得された前記複数のデータファイルに対し、所定の切り出しルールと用語の関係記述であるオントロジとを利用して解析するステップと、

解析された前記複数のデータファイルから有用な情報を抽出するステップと、

抽出された前記有用な情報をユーザにとって利便性のよい形で再構築するステップと

を含む情報収集方法。

【請求項12】 ネットワークを介して取得されるHTMLの文書からTableタグまたはListタグに基づいて情報を抽出するステップを更に含む請求項11記載の情報収集方法。

【請求項13】 前記解析するステップは、カタログおよび/または仕様情報を構成する特徴をルール化した前記切り出しルールを用いてテーブルの位置決めを行うステップと、位置決めされたテーブルの見出しがユーザにより指定されたカテゴリで一般に使用されている語彙であるか否かの語彙情報を定義する前記オントロジによって語彙のゆれを平準化するステップと、を含むことを特徴とする請求項11記載の情報収集方法。

【請求項14】 インターネットに接続されたコンピュータにおいて、ユーザの興味に関する情報を受信するステップと、前記ユーザの興味に基づき、インターネットを介して複数の文書を取得するステップと、

格納されている複数のオントロジから、前記ユーザの興味に基づいて特定のオントロジを選定するステップと、

選定された前記特定のオントロジを用いて、取得された前記複数の文書に対して横断的に内容を解析し、有用な情報を抽出するステップと、

を含む情報収集方法。

【請求項15】 前記ユーザの興味に関する情報は、対象URLとオントロジ種別に関する情報であり、

前記複数の文書を取得するステップは、前記対象URLに基づいてHTML文書を取得し、当該HTML文書からテーブル部分またはリスト部分を抜き出すことを特徴とする請求項14記載の情報収集方法。

【請求項16】 ネットワークに接続されたコンピュータにおいて、
関連性のある内容に対して各々異なった語彙にて表現された情報を含む複数の
Web ページを取得し、

取得した前記複数のWeb ページからTableタグまたはListタグに基づいて情
報を抜き出し、

抜き出した情報に対して、語彙と語彙との関連付けを示すオントロジに基づき
当該複数のWeb ページの異なる語彙に対して横断的に情報を解析し、

解析された情報を合算し、

合算結果をユーザ端末に対して送信することを特徴とする情報収集方法。

【請求項17】 前記合算は、各Web ページで異なる語彙に対して、上位
下位概念の処理および/または関係処理を施して項目のマッチングを行うことを
特徴とする請求項16記載の情報収集方法。

【請求項18】 コンピュータに、

複数のデータファイルをネットワークを介して取得する機能と、

取得された前記複数のデータファイルに対し、所定の切り出しルールと用語の
関係記述であるオントロジとを利用して解析する機能と、

解析された前記複数のデータファイルから有用な情報を抽出する機能と、

抽出された前記有用な情報をユーザにとって利便性のよい形で再構築する機能
と

を実現させるプログラム。

【請求項19】 前記解析する機能は、所定の公理ルールに基づいて推論演
算を実行することを特徴とする請求項18記載のプログラム。

【請求項20】 前記再構築する機能は、関連性のある語彙と値について同
値関係进行处理し、更に新たな関係を挿入して情報を再構築することを特徴とする
請求項18記載のプログラム。

【請求項21】 コンピュータに、

ユーザの興味に関する情報に基づき、インターネットを介して複数の文書を取
得する機能と、

格納されている複数のオントロジから、前記ユーザの興味に基づいて特定のオ

ントロジを選定する機能と、

選定された前記特定のオントロジを用いて、取得された前記複数の文書に対して横断的に内容を解析する機能と、

を実現させるプログラム。

【請求項 22】 コンピュータに、

関連性のある内容に対して各々異なった語彙にて表現された情報を含む複数の Web ページを取得する機能と、

取得した前記複数の Web ページから Table タグまたは List タグに基づいて情報を抜き出す機能と、

抜き出した情報に対して、語彙と語彙との関連付けを示すオントロジに基づき当該複数の Web ページの異なる語彙に対して横断的に情報を解析する機能と、

解析された情報を合算する機能と、

を実現させるプログラム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、情報を収集・整理する情報収集システム等に係り、より詳しくは、例えば Web 上に公開されている様々な領域のカタログ情報等につき、所定の抽出ルールに基づき、例えば同類項目を合算して表示等を行う情報収集システム等に関する。

【0002】

【従来の技術】

近年、インターネット利用の普及に伴い、例えば車やパーソナルコンピュータ (PC)、不動産、金融関係等の情報をユーザが必要とする際、各サイトから Web (ワールド・ワイド・ウェブ: WWW) を通じて Web コンテンツの配信を受けることが一般的に行われている。これらの情報を必要とする際に、ユーザは、自動車会社のホームページ (HP) やコンピュータ会社の HP 等からカタログ情報等を取得し、取得したこれらのカタログ情報等を比較検討して商品購入を決定している。

【0003】

ここで、これらのカタログ情報等は、各種情報が項目別に分類されたテーブル形式を用いてユーザに提供されており、それ自身としては、ユーザに対して見易い形式、見易い内容となるように工夫されている。しかしながら、これらの情報は、各社の独自の基準で作成されており、ユーザによる比較検討が非常に難しい。例えば、PCのカタログを例に挙げると、例えば、A社では「CPU」という文言が用いられ、B社では「プロセッサ」という文言が用いられており、同様な意味について異なった文言が用いられている場合がある。また、ノートブック型PCでは、例えば、A社では「バッテリー重量」と「本体重量」という文言で表記され、B社ではこれらを合わせて「総重量」と表記されている場合など、文言や表記の仕方が異なっている場合もある。

【0004】

従来では、これらの情報について比較検討する際、ユーザが一つ一つのサイトを開き、手作業で比較することが行われていた。また、自動車会社などでは、各車両のデータについて、各メーカーからの公開情報(カタログ・リリース等)から担当者が抜粋し、各装備類の名称等について、その会社の名称に統一、分類して表記されたものをユーザに提供している例もある。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来、これらの作業は、上述のように人間が手動で行っていることから、比較検討に多大な時間を要すると共に、必ずしも正確な検討結果が得られるものではない。また、例えば、自社の名称にて統一して比較結果を提供する場合でも、従来では人間が手動で名称の統一や更新を行う必要があり、ユーザに対してタイムリーな情報提供が困難であった。また、例えば自動車の比較結果を自動車会社が提供する上記場合においても、車種の最新情報等については更新が遅れる場合も多く、最終的な最新情報の確認は、ユーザにより各メーカーのHP、カタログ等を行うことを余儀なくされていた。

【0006】

そこで、インターネット上の複数の情報を機械的に取り出すことが望まれる。

しかし、各サイトから提供されるWebページは、現在、ほぼHTML形式のみで記述され、記載されているテーブルは、単に、ユーザの見易さだけが念頭に置かれている。そのために、非常に複雑なテーブル構造、複雑なツリー構造となっており、簡単には必要な情報を取り出すことができない。また、これらの情報は、機械的に見て構造化されていない文書と言うことができ、例えば、ページの中でどこに情報があるのか、を機械的に把握することは難しく、更に、同じ概念が違う言葉で表現されており、ユーザが情報を入手した後の機械的な二次処理は困難である。

【0007】

また、例えば、価格情報提供サイトのように、様々なデータの集計情報を提供するサイトが存在するが、これは所謂Screen Scrapingという方法(各社のHTMLの構成を作り込みでプログラムすることで、必要な情報を得る方法)で実現されており、情報提供サイトのHTML構造が変わると情報収集ができなくなっていた。そのために、自前のデータベースに人手を介して情報を入力するものが大半であった。

【0008】

また、例えば、テレビ番組を逃さずチェックしてくれるソフトツールも存在する。このソフトツールでは、ユーザが類義語を定義し、各社テレビガイドのWebページからテレビ番組の情報を取得し、ユーザの興味で切り出して提供することが可能である。しかし、かかるソフトウェアでは、各社別の定義ファイルをそれぞれ用意し、これを使用することで情報を取り出すことから、各社別の定義ファイルを十分に作り込まないと使用することができず、汎用性に欠けるものであった。

【0009】

更に、現在、Webクリッピングサービス等で、ユーザの指定によって、任意のウェブサイトの位置から情報取得を可能とするものが存在する。ここでは、ページのDOM(Document Object Model)構造に着目し、XPathを利用して、指定された位置を、自動的に、指定された期間ごと若しくは変更があったときにクリッピングすることができる。しかしながら、ページ全体の構造や、レイアウトが

変わった場合に、DOM構造も変化してしまい、自動的にクリッピングすることが困難となる。

【0010】

本発明は、以上のような技術的課題を解決するためになされたものであって、その目的とするところは、例えばWeb上に公開されている様々な領域のカタログ等を、自動的に切り出すことにある。

また他の目的は、切り出された同一項目を合算して、例えば一つの表にしてユーザに提供することにある。

更に他の目的は、広範囲な領域での合算に対応することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】

かかる目的のもと、本発明は、コンピュータがそのまま解釈できるように構造化されていない文書(データファイル)から、語彙と語彙との関係を定義したオントロジを利用して解析することで、Web上にばらばらに存在する既存の各社カタログ等の中から、有用な情報を自動的に取り出し、同じ意味を持つ情報等を合算させ、例えば比較表等、ユーザに対して利便性のよい形で合算された情報を提供している。即ち、本発明が適用される情報収集システムは、構造化されていない複数のデータファイルをネットワークを介して取得する取得手段と、この取得手段により取得された複数のデータファイルに対し、所定の切り出しルールと用語の関係記述であるオントロジとを利用して解析する解析手段と、この解析手段による解析に基づいて、複数のデータファイルから必要な情報を抽出する抽出手段とを含んでいる。

【0012】

ここで、この取得手段により取得されるデータファイルは、機械(コンピュータ)により読み取ってそのまま2次処理を行うことのできない、所謂構造化されていないテキスト、音、絵等を含む。特に、この取得手段は、ユーザの興味に基づくURL(Uniform Resource Locators)を用いてHTML(Hypertext Markup Language)で書かれた文書を取得し、この解析手段は、特定のタグ情報を用いて文書を解析することを特徴とすることができる。この特定のタグ情報としては、HT

MLのTableタグやListタグ等が挙げられる。尚、切り出しルールおよびオントロジは、ユーザ入力に従って適切なものを選択することができる。このとき、ユーザからの入力データにオントロジ特定データと切り出しルール特定データが含まれている場合の他、何らかのユーザの興味を示す入力データに基づいて、切り出しルールやオントロジを選択する場合もある。

【0013】

また、この解析手段による解析に用いられる所定の切り出しルールは、カタログおよび/または仕様情報を構成する特徴をルール化したものとすることができる。更に、この解析手段は、用語の異なる複数のデータファイルに対し、オントロジを利用して横断的に内容を解析することを特徴とすることができ、また更に、抽出手段により抽出された情報を再構築し、この情報の中から同値関係をまとめてユーザ端末に提供する提供手段を含むことができる。

【0014】

また、対象ごとに異なったオントロジを格納するオントロジ格納手段を備え、解析手段は、このオントロジ格納手段から所定のオントロジを読み出して解析することを特徴とすれば、プログラムに大きな変更を加えずとも、様々な分野の情報収集、解析に対応できる点から好ましい。

【0015】

一方、本発明が適用されるアプリケーションサーバは、ユーザの興味に関する情報を受信するユーザ要求受信部と、このユーザ要求受信部より受信した情報に基づいて、複数のサイトからHTML文書を取得するHTML取得部と、ユーザ要求受信部より受信した情報に基づいてオントロジを読み出し、語彙情報を得る語彙情報処理機構と、HTML取得部から取得したHTML文書に対し、語彙情報処理機構から提供される語彙情報に基づき、HTML文書のタグを頼りに抽出データオブジェクトを取り出す抽出位置情報特定部とを含んでいる。

【0016】

ここで、HTML取得部から取得したHTML文書に対して切り出し処理を施すための切り出しルールを提供する切り出しルール処理機構、公理ルールに基づいて推論演算を実行する推論処理機構を更に備え、この抽出位置情報特定部は、

切り出しルール処理機構から提供される切り出しルールに基づいて、また、推論処理機構にて実行される推論演算に基づいて、抽出データオブジェクトを取り出すことを特徴とすることができる。

【0017】

また、抽出位置情報特定部によって取り出された複数の抽出データオブジェクトに対して合算処理を施す情報整理集約部と、情報整理集約部による合算処理の結果に基づいてテーブルおよび/またはリストを生成する合算結果オブジェクト生成部と、この合算結果オブジェクト生成部により生成された合算結果オブジェクトを送信するユーザ要求送信部とを更に備えたことを特徴とすれば、ユーザに対して利便性のよい形で合算結果を提供できる点で優れている。

【0018】

更に、本発明が適用される情報収集方法は、ネットワークに接続されたコンピュータにおいて、構造化されていない複数のデータファイル(HTMLの文書)をネットワークを介して取得するステップと、ネットワークを介して取得されるHTMLの文書からTableタグまたはListタグに基づいて情報を抽出するステップと、取得され情報が抽出された複数のデータファイルに対し、所定の切り出しルールと用語の関係記述であるオントロジとを利用して解析するステップと、解析された複数のデータファイルから有用な情報を抽出するステップと、抽出された有用な情報をユーザにとって利便性のよい形で再構築するステップとを含んでいる。ここで、この解析するステップは、カタログおよび/または仕様情報を構成する特徴をルール化した切り出しルールを用いてテーブルの位置決めを行うステップと、位置決めされたテーブルの見出しがユーザにより指定されたカテゴリで一般に使用されている語彙であるか否かの語彙情報を定義するオントロジによって語彙のゆれを平準化するステップとを含むことを特徴とすることができる。

【0019】

他の観点から捉えると、本発明が適用される情報収集方法は、インターネットに接続されたコンピュータにおいて、ユーザの興味に関する情報を受信するステップと、ユーザの興味に基づき、インターネットを介して複数の文書を取得するステップと、格納されている複数のオントロジから、ユーザの興味に基づいて特

定のオントロジを選定するステップと、選定された特定のオントロジを用いて、取得された複数の文書に対して横断的に内容を解析し、有用な情報を抽出するステップとを含んでいる。

【0020】

更に、本発明が適用される情報収集方法は、ネットワークに接続されたコンピュータにおいて、関連性のある内容に対して各々異なった語彙にて表現された情報を含む複数のWebページを取得し、取得した複数のWebページからTableタグまたはListタグに基づいて情報を抜き出し、抜き出した情報に対して、語彙と語彙との関連付けを示すオントロジに基づき複数のWebページの異なる語彙に対して横断的に情報を解析し、解析された情報を合算し、合算結果をユーザ端末に対して送信することを特徴としている。ここで、この合算は、各Webページで異なる語彙に対して、上位下位概念の処理および/または関係処理を施して項目のマッチングを行うことを特徴とすることができる。

【0021】

更に本発明は、ネットワークに接続されたサーバとして機能するコンピュータによって実行されるプログラムとして把握することができる。このプログラムは、構造化されていない複数のデータファイルをネットワークを介して取得する機能と、取得された複数のデータファイルに対し、所定の切り出しルールと、用語の関係記述であるオントロジと、所定の公理ルールに基づく推論演算とを利用して解析する機能と、解析された複数のデータファイルから有用な情報を抽出する機能と、抽出された有用な情報をユーザにとって利便性のよい形、例えば、関連性のある語彙と値について同値関係进行处理し、更に新たな関係を挿入して情報を再構築する機能とをコンピュータに実現させている。

【0022】

また、本発明が適用されるプログラムは、ユーザの興味に関する情報に基づき、インターネットを介して複数の文書を取得する機能と、格納されている複数のオントロジから、ユーザの興味に基づいて特定のオントロジを選定する機能と、選定された特定のオントロジを用いて、取得された複数の文書に対して横断的に内容を解析する機能とをコンピュータに実現させる。

【 0 0 2 3 】

更に、本発明が適用されるプログラムは、関連性のある内容に対して各々異なった語彙にて表現された情報を含む複数のWebページを取得する機能と、取得した複数のWebページからTableタグまたはListタグに基づいて情報を抜き出す機能と、抜き出した情報に対して、語彙と語彙との関連付けを示すオントロジに基づき複数のWebページの異なる語彙に対して横断的に情報を解析する機能と、解析された情報を合算する機能とをコンピュータに実現させる。

【 0 0 2 4 】

これらのプログラムとしては、コンピュータを顧客に対して提供する際に、例えばサーバ等の装置の中にインストールされた状態にて提供される場合の他、コンピュータに実行させるプログラムをコンピュータが読取可能に記憶した記憶媒体にて提供する形態が考えられる。この記憶媒体としては、例えばフロッピーディスクやCD-ROM媒体等が該当し、フロッピーディスクドライブやCD-ROM読取装置等によってプログラムが読み取られ、フラッシュROM等にこのプログラムが格納されて実行される。また、これらのプログラムは、例えば、プログラム伝送装置によってネットワークを介して提供される形態がある。このプログラム伝送装置としては、例えば、ホスト側のサーバに設けられ、プログラムを格納するメモリと、ネットワークを介してプログラムを提供するプログラム伝送手段とを備えている。

【 0 0 2 5 】

【発明の実施の形態】

以下、添付図面に示す実施の形態に基づいて本発明を詳細に説明する。

図1は、本実施の形態が適用される情報収集システムの全体構成を示した図である。図1に示す情報収集システムは、例えばPDA(Personal Digital Assistant)やノートPCなどのネットワーク接続が可能なユーザ端末11、各社ごとに設けられ各種カタログや情報からなるWebページを提供するWebサーバ12、本実施の形態における情報収集サービスをユーザ端末11に提供するWebアプリケーションサーバ20を備え、これらがインターネット10を介して接続されている。尚、Webアプリケーションサーバ20だけを捉えて、狭義の情報収

集システムとして把握することも可能である。かかる場合等において、「システム」の文言は、各機能が筐体を同じくするか、所定のネットワークを介して接続されているかを問うものではない。

【0026】

Webアプリケーションサーバ20は、ユーザ端末11からユーザの興味の登録を受け、情報収集サービスに対する最初のアクセスページを提供するポータルサーバ21、各社のWebサーバ12からインターネット10を介して情報の収集を行うインフォメーション/サービス・モニタ・エージェント22、語彙と語彙との関連付けであるオントロジ(Ontology)をデータベースに格納し、語彙情報群を提供するオントロジサーバ23、ポータルサーバ21を介して得られたユーザ要求から情報収集処理を実行しユーザ端末11に提供する情報配信システム24を備えている。この情報配信システム24は、ユーザ端末11からユーザが登録した自身の興味と収集した情報とが合致しているか否かを調べている。オントロジサーバ23は、対象ごとに異なったオントロジ(例えば、ノートPCオントロジ、デジタルカメラオントロジ、不動産オントロジ等)をそれぞれのデータベースに格納しており、対象ごとにオントロジを入れ替えるように機能している。また、情報配信システム24では、例えば「A社の株価が100を超えるという情報があれば通知して欲しい。」といったユーザの興味を登録すると、インフォメーション/サービス・モニタ・エージェント22によって収集された情報を調べ、興味に一致している情報があれば合致しているという結果を返している。

【0027】

ここで、理解を容易にするために、本実施の形態における情報収集処理の概要について説明する。一般に、インターネット10を介して得られるHTMLで記述された情報は、ユーザ端末11のユーザ等に対して視覚的に表現するための効果を狙って記述されており、コンピュータに対しては非構造化(構造化されていない)のデータファイルであると言える。そのために、インターネット10上の複数の情報を比較(収集・整理)するには、多くの手間が必要となる。即ち、データ構造を簡単に扱える形式をもっておらず、HTMLで書かれたこれらの情報では、各ページの中でどこに情報があるのかを機械的に把握することが難しく、機

械的に2次処理を施して情報を取り出すことは難しい。また、同じ概念が異なる語彙で表現されている場合も多く、ユーザにとって有用な情報を機械的に抽出することが困難である。本実施の形態では、Web上に公開されている様々な領域のカタログ等を電子的に配布し、配布されたパンフレット・カタログを自動的に切り出し、同一項目を合算して一つの表にすることで、ユーザによる比較を容易にしている。また、本実施の形態では、各領域ごとのカタログ等に記載されている表に対し、切り出しルール、語彙、概念体系(オントロジ)を挿げ替えることで、広範な領域での合算に対応することができる。

【0028】

図6および図7は、Web上に公開されているカタログの一例を示した図である。ここでは、PCを販売しているメーカーの各Webサーバ12から提供されるWebページの例を示している。図6に示すカタログでは、コンピュータの入出力や命令の実行などを行うCPUを「プロセッサ」と呼び、各機種ごとに、この「プロセッサ」の仕様が表現されている。一方、図7に示すカタログでは、この部分を「CPU」と呼び、各機種ごとにその仕様が表示されている。従来では、これらのホームページ(HP)から得られたカタログについて、購入等の際に、ユーザが自ら目で見えて手作業で比較することが必要であった。

【0029】

図8は、本実施の形態における合算表示例を示した図である。ここでは、図6のHPに示す商品情報と図7に示すHPの商品情報とをまとめ、例えば、図6に示す「プロセッサ」と図7に示す「CPU」とを「プロセッサ」の項目で合算して、表示している。具体的には、語彙と語彙との関連付けである「オントロジ」を用い、今まで意味付けの概念が存在しなかったテーブルを、Web上から、以下実施例で述べる手法を適用することで切り出しを行う。そして、各テーブルの欄にオントロジを用いて、上位、下位概念の関係、類義語、反意語、および論理演算、述語関係による推論を施し、意味を類推することにより、各社ごとの表を一つの表に合算している。即ち、オントロジを用いて各テーブルに意味を持たせ、その意味に応じてそのテーブルを切り出し、同じ意味を有するもの同士を合算している。これにより、各社ごとのその機能を表す単語が異なっても、意味

付けによって自動的に同じ物であると判断し、例えばCPUとプロセッサとは同じ物として合算している。この合算された表を参照することによって、ユーザは、各社まちまちの単語を用いて表現されていた情報に対して、例えば統一した用語を用いて容易に比較することができる。

【0030】

このとき、本実施の形態では、各サイトごとに作り込みを行ってはいない。そのために、例えば、ノートPC用オントロジ、デジタルカメラ用オントロジ、不動産オントロジ等、各対象領域ごとにオントロジを定義でき、プラグインすることで動的に対処できる。この技術によれば、各テーブルの値にオントロジ操作を施すことで、例えばHTML (Hypertext Markup Language)でのテーブルなどのように、「人間には表の意味が理解できるが機械にはただの表示の手段に過ぎず、表の各欄の意味は理解できない。」という言語から、機械にも理解できるようなXML (Extensible Markup Language)やRDF (Resource Description Framework)といった形式に自動的に変換することが可能となる。また、具体的な応用例としては、このように各HTMLのテーブルに意味を付けることができると、例えば、プログラム製品のINS (Intelligent Notification Services)を使うことにより、予め登録しておいたユーザの興味のある事象と、既存のWebページの内容とが一致しているか、といった定量的な比較が可能となり、ユーザの興味が一致した場合に、ユーザに通知するように構成することも可能である。

【0031】

ここで、「オントロジ」とは、意味情報を表現するための方法の一つであり、概念同士の関係やそれらを解釈するための論理的なルールを定義する文章の集合である。例えば、「日曜日午前大和内科」という内容を検索するとする。現状のWebでは、HTMLからそのままの単語を取り出して検索結果としており、多くの検索ゴミが発生していた。一方、「オントロジ」では、a. 大和は市の名前であること、b. 病院には内科、外科、耳鼻科があること、c. 病院には診察日や診察時間があること、等のそれらを解釈するための論理的なルールが定義され、この文章の集合から検索結果を得ることができる。その結果、検索ゴミを少なくすることが可能となる。本実施の形態では、抜き出したテーブルにこの「オン

「オントロジ」を用い、各ページで異なる語彙に上位下位概念、関係処理を施し、項目のマッチングを行い、言葉のゆれなどの形態素にまつわる処理を行っている。このとき、色々な領域(例えば保険、株式、病院、不動産、車、PC等)に対する「オントロジ」を用意することで、色々な領域に対して応用することができる。

【0032】

次に、かかる情報収集方法を実現するための構成について、以下に詳述する。

図2は、本実施の形態が適用される情報配信システム24の機能構成を示したブロック図であり、図1に示すWebアプリケーションサーバ20にて実行される。ここでは、ユーザの興味に関する情報を受信するユーザ要求受信部31、ユーザ要求受信部31により指定されたURLからHTMLの文書を取得するHTML取得部32、HTMLのテーブルに着目して、抽出するデータが含まれるテーブル(位置)を特定する抽出位置情報特定部33、得られた複数のサイトからの情報を合算する情報整理集約部34、合算した情報(合算処理オブジェクト)をテーブル等の指定された表示形式(合算結果オブジェクト)に変換してこれらを表示する合算結果オブジェクト生成部35、合算結果をユーザに提供するユーザ要求送信部36を備える。また、ユーザ関心表現式により関連する切り出し(抽出)ルール群をロードする切り出しルール処理機構41、ユーザ関心表現式により関連するオントロジをロードする語彙情報処理機構42、抽出位置情報特定部33や情報整理集約部34から呼ばれて様々な推論演算を実行する推論処理機構43を有している。

【0033】

まず、ユーザ要求受信部31では、ユーザの興味を適切に表現するコンポーネントとして、例えばSQL(Structured Query Language)等で書かれたユーザ関心表現式を受信する。このユーザ関心表現式は、ノートPCの例では「価格が15万円以下のノートブックを表示」といった具合になる。また、他の方法として、例えばユーザによる特定のキーワード入力を受け、所定のプログラムがこのキーワードからURL(Uniform Resource Locators)とオントロジ種別とを特定し、ユーザ関心表現式として扱うことができる。即ち、テキスト入力を受けた後、全文検索エンジンから見込みのある対象URLを得ることで、ユーザ関心表現式

を作成する。例えば、ユーザからの指定や検索によって、以下のようなURL、オントロジ種別を得ることができる。

UserInterest

URL1 http://xxx.yyy

URL2 HYPERLINK "http://yyy.xxx" http://yyy.xxx

TargetSpec NotePCSpecOntology

(DigitalCameraSpecOntology, RealEstateSpecOntology)

【0034】

HTML取得部32は、ユーザ要求受信部31から上述したようなURLを取得する指定URL取得部51、この得られたURLからHTML部分を解析するHTML解析部52を備えている。得られた情報位置式URLとしては、例えば、<http://www.somecompany.com/products/notepc/newproduct.html> 等である。

まず、最初にWebアプリケーションサーバ20側にて取得された状態としては、HTMLオブジェクト(HTMLの構文解析木(ツリー構造))として1ページを丸ごと取得した状態にある。また、DOM(Document Object Model)によって、HTMLのデータ構造解析を行い、タグ情報が取得される。HTML解析部52では、例えばAPI(Application Program Interface)を利用して、HTMLオブジェクトからテーブル部分だけの情報、即ち、Tableオブジェクト(HTML構文解析木のサブセット)を抜き出している。尚、リストについても同様に、Listタグの中のツリー構造に対して同様な手法を用いて抜き出すことが可能である。

【0035】

抽出位置情報特定部33では、切り出しルール処理機構41、語彙情報処理機構42、推論処理機構43が呼び出され、抽出データオブジェクトが取り出される。そのために、この抽出位置情報特定部33は、HTML取得部32によって得られたHTMLオブジェクトから、、、等のリスト構造から抽出データオブジェクトを取り出すリスト構造抽出部53、テーブル構造から抽出データオブジェクトを取り出すテーブル構造抽出部54、Tableタグが入れ子である場合に、更に内部のTableタグで囲まれた部分を抽出する情報提示位置特定部55を有している。つまり、テーブル構造やリスト構造を構文解析するHTML

Table 1

Vocaburary:HDD Value: 20GB

• • • • •

Table 2

Vocaburary:ハードディスクドライブ **Value:** 15GB

• • • • •

:

【 0 0 3 6 】

- ・ 一行目には全て同じ項目となる場合が多い。
- ・ 仕様に関する語彙は一桁目に来る。
- ・ 一桁目(項目桁)とそれに対応する右側にあるカラムとはある関係を持つ。
- ・ 空白のセルはある程度より多くない。

・CPUのカラムに対応するカラムには重量を表す1kgはこない。

等の複数のルールが存在し、抽出位置情報特定部33は、これらのルール群を参照して、抽出位置情報を特定している。

【0037】

語彙情報処理機構42は、語彙情報群を管理する語彙情報管理機構65、所定のメモリから語彙情報をロードする語彙情報ロード部66を備え、ユーザ関心表現式よりオントロジをロードして(例えば、図1に示すオントロジサーバ23から所望の(対象の)オントロジを読み出して)語彙情報群を得ている。語彙情報の例として、例えば、各社のPCを比較する際に使われるオントロジでは、以下の様なものがある。

```
Class CPU sameAs プロセッサ
Class プロセッサ sameAs CPU
Class キャッシュメモリ
Class L2キャッシュ subclassOf キャッシュメモリ
Class 重量 subclassOf
    unionOf 本体質量
        バッテリ質量
```

ここで、“sameAs”は、「～と同じ意味」、「subclassOf」は、「上位下位の関係」、「unionOf」は、「含む」である。例えば、オントロジを用いて「重量」は「本体重量」+「バッテリー」という関係を定義することで、ユーザに有用な情報に変換することが可能となる。

【0038】

このように、語彙情報処理機構42によって提供される語彙情報は、語彙間の関係を持ち、例えば、上位、下位概念関係、同義、反義、類義といった一般的な関係から、その語彙特有の関係(物理的関係、時系列的関係、単位系)、および語彙情報定義者の個別定義による種々の関係定義などを持つことができる。また、そのような語彙情報は、基本概念を構成するものと、領域に応じて作成するものがあり、領域に応じて作成されるものは、基本概念を構成するものをベースにし、他の領域の語彙情報を参照することもできる。

【0039】

推論処理機構43は、推論演算を実行する推論エンジン68、推論エンジン68の実行を制御する推論エンジン実行制御機構67、所定のメモリから公理ルール群をロードする基本(公理)ルールロード部69を備え、推論エンジン68の受け付けるルール記述形式により記述されたルール群である公理ルールを用いて推論処理を実行している。ここでは、オントロジをセマンティック(Semantic)実行するために推論エンジン68を使用し、駆動ルールが実装されている。例えば、事実のみから三段論法が実行され、Web上に散在する事実(オントロジ言語により記述されたメタ情報)から推論するために、定言三段論法が実装される。この定言三段論法としては、例えば、

(大前提) 全ての人間は死すべきものである。

(小前提) ソクラテスは人間である。

→(結論) ゆえにソクラテスは死すべきものである。

といったものが挙げられる。

【0040】

論理型言語による通常の三段論法は、事実(定言)と、含意、もし～ならば(仮言)からなる混合仮言三段論法で表現される。論理型言語での例では、

mortal(X) : - man(X) (大前提) 仮言(条件)

man(socrates). (小前提) 定言(事実)

? - mortal(socrates). → yes. (結論)

【0041】

定言三段論法の実装として、推移律の実装では、以下のようになる。

```
/*TransitiveProperty*/
```

```
if pv( type,?p, TransitiveProperty) and
```

```
pv(?p,?x,?y) and
```

```
pv(?p,?y,?z)
```

```
then
```

```
pv(?p,?x,?z)
```

このようにして、矛盾したものを外し、同値のものを得る等、推論処理機構43、

では、事実から新しい事実を三段論法によって導出するための公理ルールを提供している。

【0042】

このように、推論処理機構43では、語彙情報処理機構42によって上記の様に定義された語彙情報における関係进行操作するために、推論エンジン68を使用し、様々な関係における論理演算をルールとして実装している。例えば、矛盾した語彙の発見、包含関係の発見、三段論法による新事実の発見等により、カタログ、仕様情報を構成するテーブルなどの切り出しの精度を上げ、且つ、複数のページから切り出された情報を付き合わせる際にも同様の手法を適用し、情報の整理、集約の自動実行を可能としている。尚、定言三段論法以外に、反対(inverse)関係や矛盾(disjoint)関係等を駆動するための公理ルールがある。本実施の形態では、基本的な公理ルールによって、オントロジで定義された関係を他の関係との間に適応して新事実、矛盾等が推論できるように、推論処理を駆動している。

【0043】

情報整理集約部34では、合算処理を行う情報合算部56、合算対象の位置決めの特定を行う合算対象位置決め特定部57を有し、抽出位置情報特定部33で取り出された抽出データオブジェクトから合算処理オブジェクトを生成している。この合算処理を行う際、語彙情報処理機構42および推論処理機構43が呼び出され、オントロジがそれぞれの語彙について対応付けられ、推論を用いてその結果が集約できるように構成されている。この合算処理オブジェクトは、語彙と値との対応付けを横断的に行い、同値関係を処理し、更に新たな関係も挿入されたものである。その例としては、

Object

Entry 1

Class:CPU OriginalVoc: CPU Value: Mobile CPU III

Class:HDD OriginalVoc: HDD Value: 20GB

: : :

Entry 2

Class:CPU OriginalVoc: プロセッサ Value: PPP PC

Class:HDD OriginalVoc: ハードディスクドライブ Value: 15GB

:
:
:

のようなデータ構造である。ここでは、「CPUのオリジナルボキャブラリとしてはCPUがある。」や、「CPUにてオリジナルボキャブラリではプロセッサとなっていた。」といったようなオブジェクトが生成される。

【0044】

このようにして、情報整理集約部34では、得られた2つのサイトからの例えばノートPCの情報が合算される。例えば、A社PCのCPUがxxx、B社PCのプロセッサがyyyというデータが、ここで、A社PCのプロセッサ(つまりCPU)がxxx、B社PCのプロセッサ(つまりCPU)がyyy、というデータとして、互いに比較対象として並べることで位置に再配置され、合算処理オブジェクトとして保持される。

【0045】

合算結果オブジェクト生成部35では、合算結果テーブル生成部58、合算結果リスト生成部59を備え、情報整理集約部34から得た合算処理オブジェクトに対して、ユーザに対して見やすい形で合算結果を提供できるようにテーブルおよび/またはリストを生成し、合算結果オブジェクトを生成している。

【0046】

ユーザ要求送信部36では、合算結果オブジェクト生成部35により生成された合算結果オブジェクトから合算結果HTMLを生成する合算結果HTML生成部61、生成されたHTMLをユーザ要求受信部31にて要求を受信したユーザに対して送信するユーザ要求結果送信部60を備え、図8に示すような比較表がユーザ端末11のユーザに提供される。

【0047】

次に、フローチャートを用いて、これらの処理について説明する。

図3は、図2のブロック図に示す各機能によって実行される全体処理の流れを示したフローチャートであり、上位の概念からの処理を説明している。まず、HTML取得部32は、ユーザ要求受信部31からの情報位置式に指定されたUR

Lへアクセスし(ステップ101)、抽出位置情報特定部33は、HTML取得部32により取得された比較対象のHTMLからテーブルを全て取得する(ステップ102)。切り出しルール処理機構41では、対象物に対する切り出しルールがロードされる(ステップ103)。語彙情報処理機構42では、対象物に対するオントロジがロードされ、テーブルの切り出しに使用される(ステップ104)。抽出位置情報特定部33では、切り出しルール処理機構41でロードされた切り出しルールや語彙情報処理機構42にてロードされたオントロジ、推論処理機構43によってロードされる公理ルール等を用いて、これらの取得したテーブルより対象物の仕様のテーブルの抜き出しが行われる(ステップ105)。ここで次の比較対象がまだあるか否かが判断され(ステップ106)、次の比較対象がある場合には、ステップ101へ戻り、次の比較対象がない場合には、語彙情報処理機構42にて対象物に対するオントロジがロードされ、ステップ109におけるテーブルの合算に使用される(ステップ107)。また、推論処理機構43では、推論エンジン68により、現在の関係を用いて新たな関係が作成される(ステップ108)。そして、語彙情報処理機構42にてロードされたオントロジおよび推論処理機構43により作成された新たな関係等を用いて、情報整理集約部34にて同一項目の合算処理が行われ、合算結果オブジェクト生成部35にて合算結果のオブジェクトが生成される(ステップ109)。その後、ユーザ要求送信部36によって合算結果がユーザに表示され(ステップ110)、全体の処理が終了する。

【0048】

次に、実施の形態にて説明した例を用いて、処理の流れを説明する。

図4は、本実施の形態が適用される処理を更に詳述したフローチャートである。まず、ユーザ要求受信部31では、ユーザの要求(興味)が受信される(ステップ201)。この受信されたユーザの要求に基づいて、HTML取得部32では、ユーザの興味のあるURLにアクセスし、HTMLが取得される(ステップ202)。このとき、例えばテーブルのあるURLは、予め指定されているものとする。抽出位置情報特定部33では、得られたHTMLがDOMで解析され(ステップ203)、テーブルタグの部分のみが切り出される(ステップ

204)。ここでテーブルタグが入れ子か否かが判断され(ステップ205)、入れ子である場合には、更に内部のテーブルタグで囲まれた部分を抽出し(ステップ206)、入れ子が残っている間はステップ205とステップ206が繰り返される。

【0049】

ステップ205にてテーブルタグが入れ子ではない場合には、例えばノートPC仕様の切り出しルール、オントロジが、切り出しルール処理機構41および語彙情報処理機構42によりロードされているか否かが判断される(ステップ207)。作成されていない場合には、切り出しルール処理機構41にて、前述したような切り出しルールが選択され、ロードされて、例えばノートPC仕様部分のテーブルが切り出される(ステップ208)。また、語彙情報処理機構42では、語彙情報(必要なオントロジ、例えばノートPCオントロジ等)が選択され、ロードされる(ステップ209)。また、推論処理機構43では、推論エンジン68が使用され、駆動ルールが実装されて、語彙の関係付けが行われて(ステップ210)、ステップ207の判断に戻る。ここでは、例えば、“unionOf”がきたらその合計を計算する等、事実のみから三段論法等が実行される。このように、オントロジが選択され、選択されたオントロジが用いられることで、例えば、各テーブルの欄にオントロジを用いて、上位、下位概念の関係、類義語、反意語、および論理演算、述語関係による推論を施し、意味を類推することにより、各社ごとの表を一つの表に合算することができる。推論エンジン68をノートPCに適用した場合には、例えば、「重量」は「本体重量」+「バッテリー」であるという事実(オントロジ)について、実際に推論エンジン68を使用して駆動される。例えば、「本体という用語とバッテリーという用語があり、そのフィールドに重さを表す情報があれば、その2つを足して、重量というラベル付けをした事実とする。」という処理が実行される。

【0050】

ステップ207にてノートPC仕様のテーブルが作成されている場合には、抽出位置情報特定部33では、オントロジ、切り出しルールを用いて、ノートPC仕様のテーブルの切り出しが行われる(ステップ211)。内部的には、それらを

ベースにした評価関数(ルールがどの程度、真になっているか等)をもとに判断が行われる。この切り出しの後、情報整理集約部34にて、各ノートPC仕様のテーブルが比較できる状態に作成されているか否かが判断される(ステップ212)。例えば、同じ項目同士があるかどうか、同じ項目らしきものについて違う言葉で書かれているか否か等について、判断できる状態にテーブルが作成されているか否かが判断される。作成されていない場合には、語彙情報処理機構42にアクセスし、オントロジを語彙に用い(ステップ213)、また、推論処理機構43にアクセスし、推論エンジン68を使用して、語彙の同値関係の付与等、新たな関係が作成され(ステップ214)、ステップ212の判断に戻る。ステップ212にてテーブルが比較できる状態に作成されている場合には、情報整理集約部34にて、各ノートPC仕様項目毎に合算され、合算結果オブジェクト生成部35にて合算結果のテーブルが生成される(ステップ215)。その後、ユーザ要求送信部36にて、出来上がった合算結果がHTMLでテーブル形式に直され、ユーザ端末11に表示され(ステップ216)、処理が終了する。尚、ステップ211のテーブルの切り出しに際して、比較できないテーブルとしては、例えばノートPCにおける合算の場合の標準的な用語に各フィールド項目が正規化されていない状態にあるものが該当する。標準的な用語は、語彙情報群により用途ごと(この例ではノートPCごと)に予め決定されている。例えば、CPUという用語が語彙情報群の標準ノートPCのスペックとして定義されている場合、ステップ213およびステップ214の処理によって、プロセッサという用語が使用されているフィールド名がCPUというフィールド名に変換される。

【0051】

図5は、ユーザ端末11に対する表示を更に詳述したフローチャートである。ユーザ要求受信部31にて、テーブルを有するURLが予め指定されている場合に、HTML取得部32では、比較対象のHTMLからテーブルが全て取得される(ステップ301)。次に、抽出位置情報特定部33では、取得したテーブルよりノートPC仕様のテーブルの抜き出しが行われ(ステップ302)、次の比較対象があるかどうか判断される(ステップ303)。次の比較対象がある場合には、ステップ301に戻り、次の比較対象がない場合には、情報整理集約部34に

てノートPC仕様のテーブルが合算される(ステップ304)。

【0052】

その後、ユーザ関心表現式から、ユーザの興味のあるもののみが抽出されたか否かが判断され(ステップ305)、そうではない場合には、情報整理集約部34にて、内容を全て合算してユーザに表示し(ステップ306)、処理が終了する。このステップ305の「ユーザの興味あるもののみ抽出する」場合とは、例えばユーザ関心表現式でユーザが「HDDが10Gバイト以上のノートPCの情報が欲しい。」と登録した場合、情報源から各ノートPCの情報が得られた後、情報の中からユーザの興味に合致したもののみを取り出すプロセスである。ユーザの興味あるもののみの抽出ではない場合には、得られた情報全てがユーザに届けられる。ステップ305でイエスの場合には、合算した結果が個々のXMLファイルに分けられる(ステップ307)。そして、ユーザの興味と合致しているものがあるかどうか判断され(ステップ308)、合致しているものがない場合にはそのまま処理が終了し、合致しているものがある場合には、合算結果オブジェクト生成部35にて内容が合算されてユーザに表示され(ステップ309)、処理が終了する。

【0053】

以上のように、カタログ、仕様情報は、テーブル、リスト形式で提示されている場合が多いが、従来技術では、HTMLのTableタグ、Listタグでは表示形式を指定するだけであり、テーブル、リスト形式で提示された情報を収集、整理するためには、ブラウザに提示された情報を手動で集め、整理するしかなかった。また、表形式で示される情報の見出し(列、行に含まれる情報の見出し)が、情報提供者(ページ)によって異なり、単純に、機械的に整理することは難しかった。特に、テーブルタグはレイアウト情報としてページに多用されており、単純にテーブルタグから必要とする情報を抽出することは困難であった。本実施の形態では、どこに情報があるかを特定する機能を備え、指定されたページを読み込み、ページの情報が属するカテゴリ情報に対してユーザの指定を可能としている。また、ページに最適化された情報抽出ルールを使用し、情報が存在するテーブル、リストの位置決めを可能としている。尚、この情報抽出ルールでは、テーブル若

しくはリストといったHTML、TAGによる位置決めと、各カテゴリのページで使用されている語彙情報とを用いて、情報の位置決めが行われている。

【0054】

また、テーブルの位置決めにおいては、レイアウト情報ではない、カタログ、仕様情報を構成する特徴をルール化し、位置決めの第一ステップとしている。また、この第一ステップにて、情報抽出を行ったテーブルにおいて、列見出し、行見出しが、ユーザによって指定されたカテゴリとして一般的に使用されている語彙であるかどうかを判断し、一般的な語彙情報をパターンとして定義し、ページ毎に異なる語彙の「ゆれ」について、語彙情報を使用して平準化し、テーブル特定の精度を上げている。尚、ページのカテゴリによる、Tableタグ、Listタグのレイアウト情報における使用パターンに応じ、このテーブルの位置決めを交換可能とし、また、カテゴリに応じた列見出し、行見出しに対して語彙情報を交換することで、多様なカテゴリに対応できる汎用的な機構を実現することもできる。このように本実施の形態では、あるページから必要な情報を複数抽出し、その複数の情報間の関係を利用し、情報の整理を行うことが可能である。

【0055】

このように、本実施の形態では、構造化されていないデータファイルからオントロジを利用して解析し、有用な情報を抽出している。特に、インターネットで標準的に用いられているHTML言語で書かれた文書の解析を、Form、Tableタグなどをヒントに解析し、情報抽出を行っている。また、オントロジ(用語の関係記述)を使って、用語の異なる複数の文書に亘っても、横断的に内容を解析し、有用な情報の抽出を可能としている。また、解析した結果を用いて、利用者に更に利便性の良い形で情報を再構築して提示することもできる。特に、カタログ形式の情報の合算に応用できることや、オントロジを交換することでプログラムに大きな変更を加えることなく様々な種類のデータファイルに対応可能である。また、HTMLからXMLのような機械処理できる言語に変換することも可能である。

【0056】

また、情報の抽出に際して、各Webページを作り込むわけではないことから

、例えば、ノートPCオントロジ、デジタルカメラ用オントロジ、不動産オントロジ等、抽出の対象毎にオントロジを入れ替えることで、動的にロードすることが可能となる。更に、各対象領域毎に抽出ルールをプラグインすることができ、色々な領域に対してプラグインを変えることで、適応することが可能となる。即ち、コアとなる部分は全て共通であることから、各Webページに対して作り直す必要がなく、保守性や生産性を向上させることができる。

【0057】

さらに平均値や合計値なども算出することができる。また、HTMLなどのメタ情報を持たない言語からXMLなどのメタ情報を付加した言語への自動変換も可能である。本実施の形態における適用分野としては、Webサイトに関するSI、ナレッジマネジメント、ポータルサイトへの付加価値なども適用分野として挙げられる。更に、意味把握機能を備えた知識表現におけるWWWであるセマンティックウェブ(SemanticWeb)との相乗効果も期待できる。

【0058】

以上、本実施の形態によれば、異なる用語を含んでいる複数の文書に対して、横断的に内容を解析することが可能となり、同じ意味を持つ情報を抽出することができる。同様に、構造化されていない文書からも目的とする情報を得ることが可能となる。また、解析した結果を合算し、比較表を作成することによって、ユーザにさらに利便性のよい形で情報を提供することができる。更に、オントロジを差し替えることで、プログラムに大きな変更を加えることなく、様々な分野に対応することが可能となる。

【0059】

この本実施の形態における応用として、例えば、展示会等にて携帯情報端末等にパンフレット等を電子的に配布し、配布されたパンフレット・カタログに対して自動的に同類項目を合算するものが挙げられる。この合算した情報を比較が容易な表現形式等に変換したり、分類したりする機能を更に備え、変換結果や分類結果を携帯情報端末上に表示したり、印刷できるようにすれば、ユーザが展示会等に行った際に多量のパンフレット等を持ち歩く代わりに、携帯情報端末等を利用して、容易に比較検討することができる。即ち、展示会等にて、XML等によ

って構造化され、R D Fによりメタデータが付与された電子パンフレットやカタログを、ローカル若しくはリモート上にあるオントロジ情報に基づいて、同一項目を抽出し、表形式のレポートをユーザに提供することが可能となる。

【0060】

更に、他の応用として、W e b上に多々ある不動産情報等について、今まではユーザが一つ一つのサイトを手作業で比較していたものを、本実施の形態の技術を用いてW e b上の表を切り出し、オントロジ操作を施し、ユーザの目的の物件を複数の不動産情報サイトから合算して表示させることも可能である。また、車の情報に関しても、現状のW e b上の情報では各社まちまちで、比較するには各社で独自に他社の情報をデータベースに持って比較することが必要であったが、同様な方法を用いることで、現在あるW e bページを使ってユーザには比較結果を届けることが可能となる。また、ショッピングやチケット、オークションといった、現在W e b上に存在するが、各社ごとに対応がまちまちで比較合算できない分野に有効である。更に、上述した実施の形態では、H T M Lのテーブルに注目したが、これをフォームに置き換えても利用可能である。このように、本実施の形態では、アドホックで未成熟なエリアに対してオントロジを適用し、汎用性のある方法を提供することで、アプリケーション開発の労力削減、オントロジ、ルールのカスタマイズ、プラグイン化による迅速な適用が可能となり、変更に強い情報検索システムを提供することが可能となる。

【0061】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、例えばW e b上に公開されている様々な領域のカタログ等を、自動的に切り出すことが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本実施の形態が適用される情報収集システムの全体構成を示した図である。

【図2】 本実施の形態が適用される情報配信システムの機能構成を示したブロック図である。

【図3】 図2のブロック図に示す各機能によって実行される全体処理の流

れを示したフローチャートである。

【図4】 本実施の形態が適用される処理を更に詳述したフローチャートである。

【図5】 ユーザ端末に対する表示を更に詳述したフローチャートである。

【図6】 Web上に公開されているカタログの一例を示した図である。

【図7】 Web上に公開されているカタログの一例を示した図である。

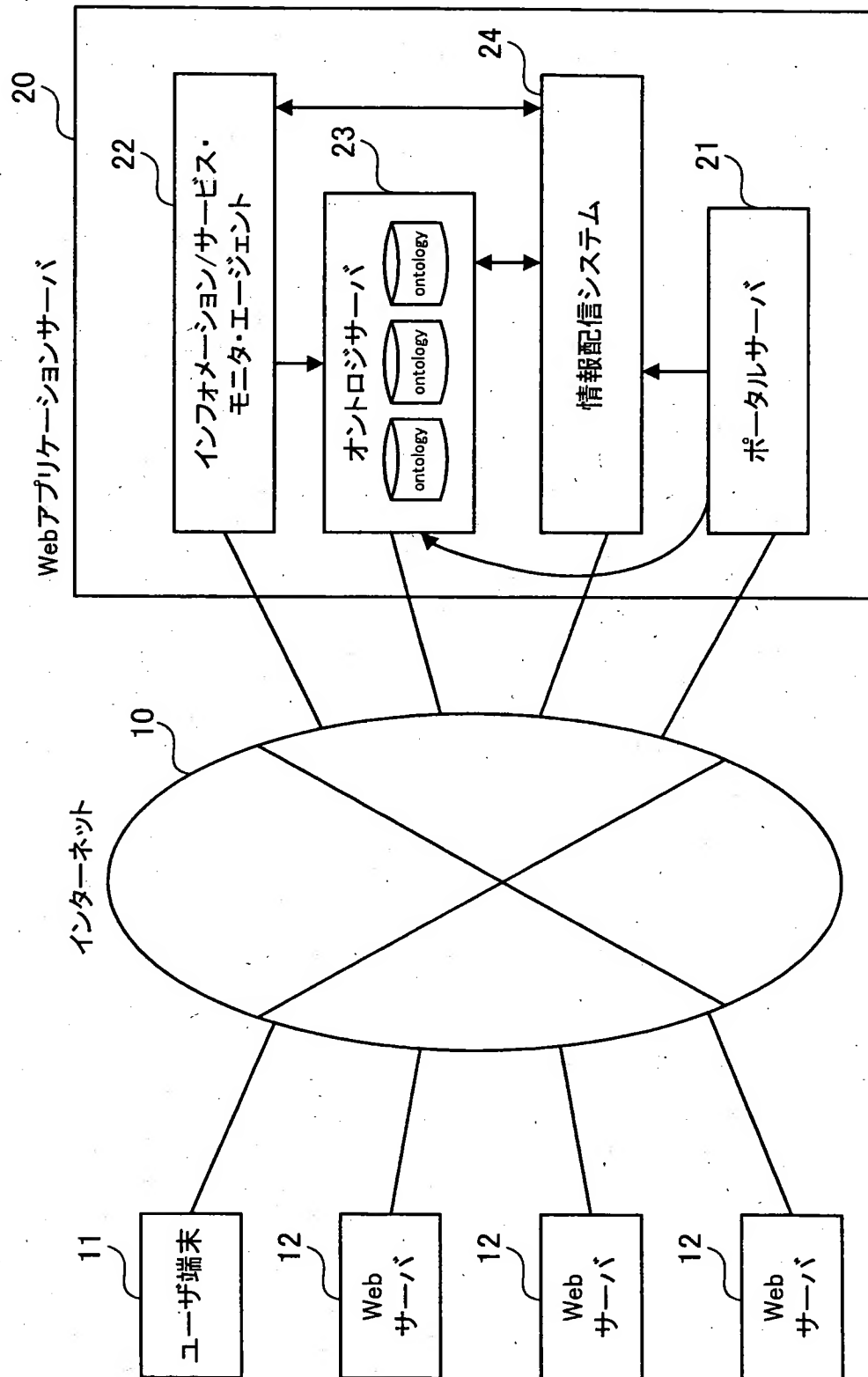
【図8】 本実施の形態における合算表示例を示した図である。

【符号の説明】

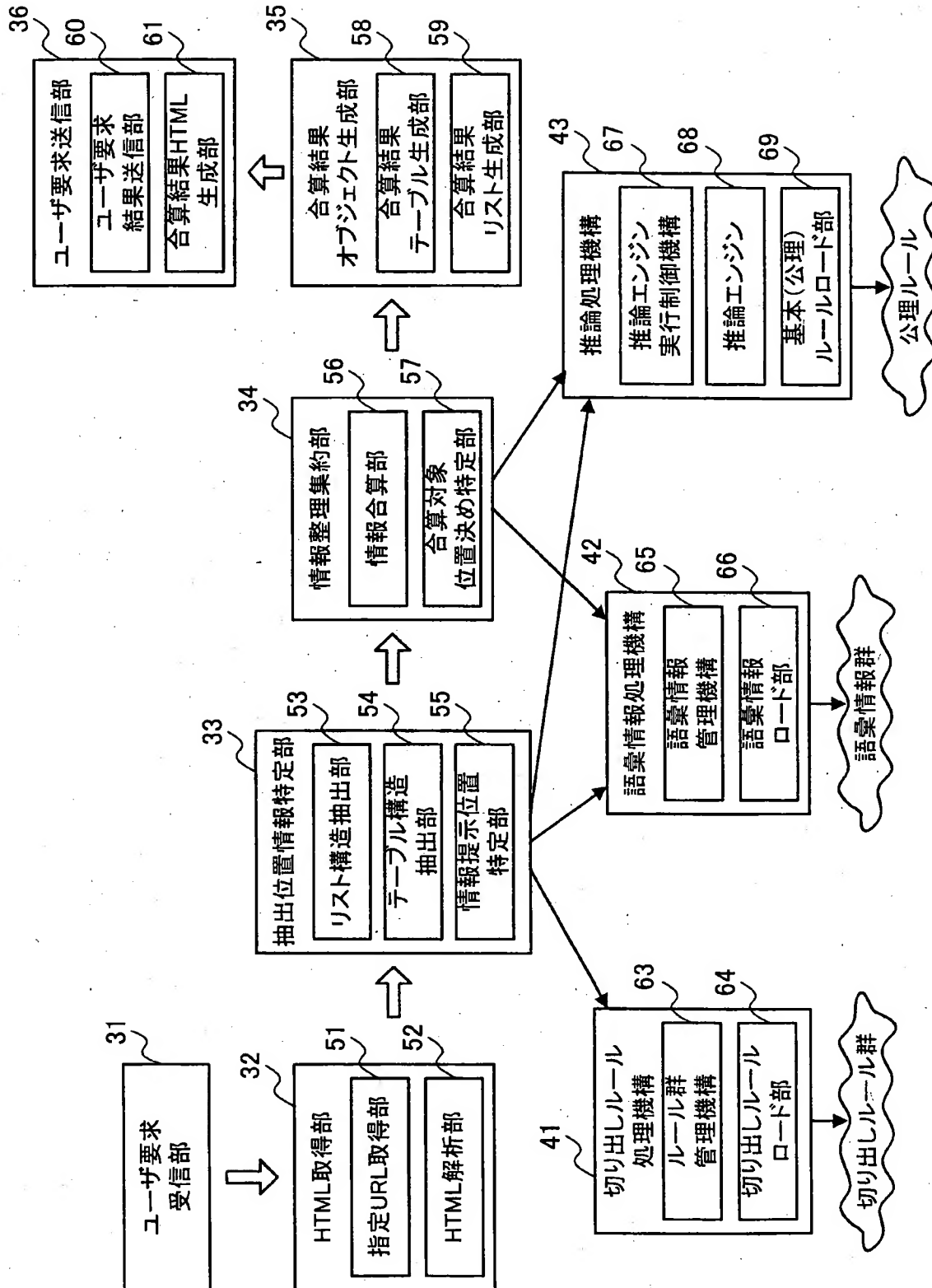
10…インターネット、11…ユーザ端末、12…Webサーバ、20…Webアプリケーションサーバ、21…ポータルサーバ、22…インフォメーション/サービス・モニタ・エージェント、23…オントロジサーバ、24…情報配信システム、31…ユーザ要求受信部、32…HTML取得部、33…抽出位置情報特定部、34…情報整理集約部、35…合算結果オブジェクト生成部、36…ユーザ要求送信部、41…切り出しルール処理機構、42…語彙情報処理機構、43…推論処理機構

【書類名】 図面

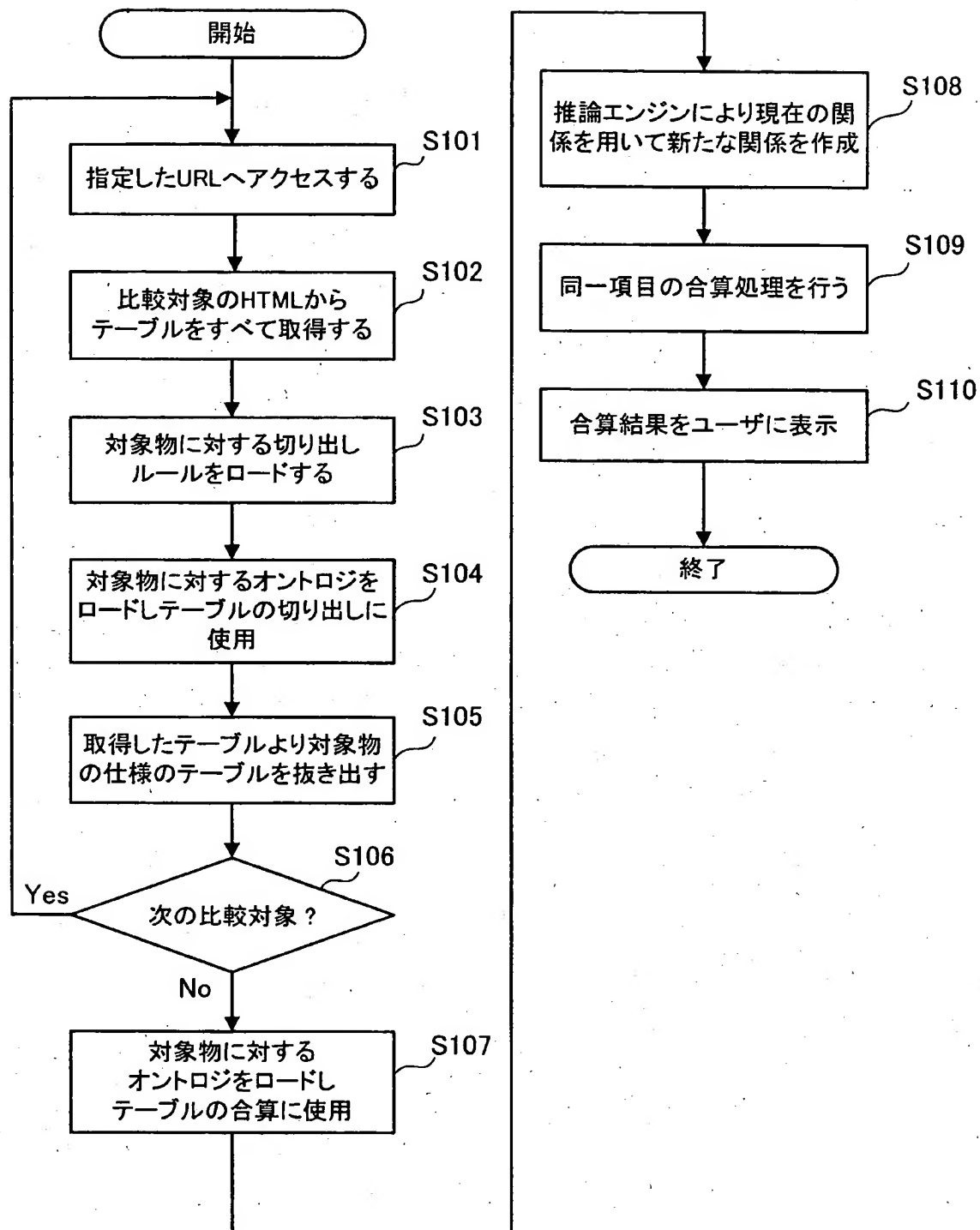
【図1】



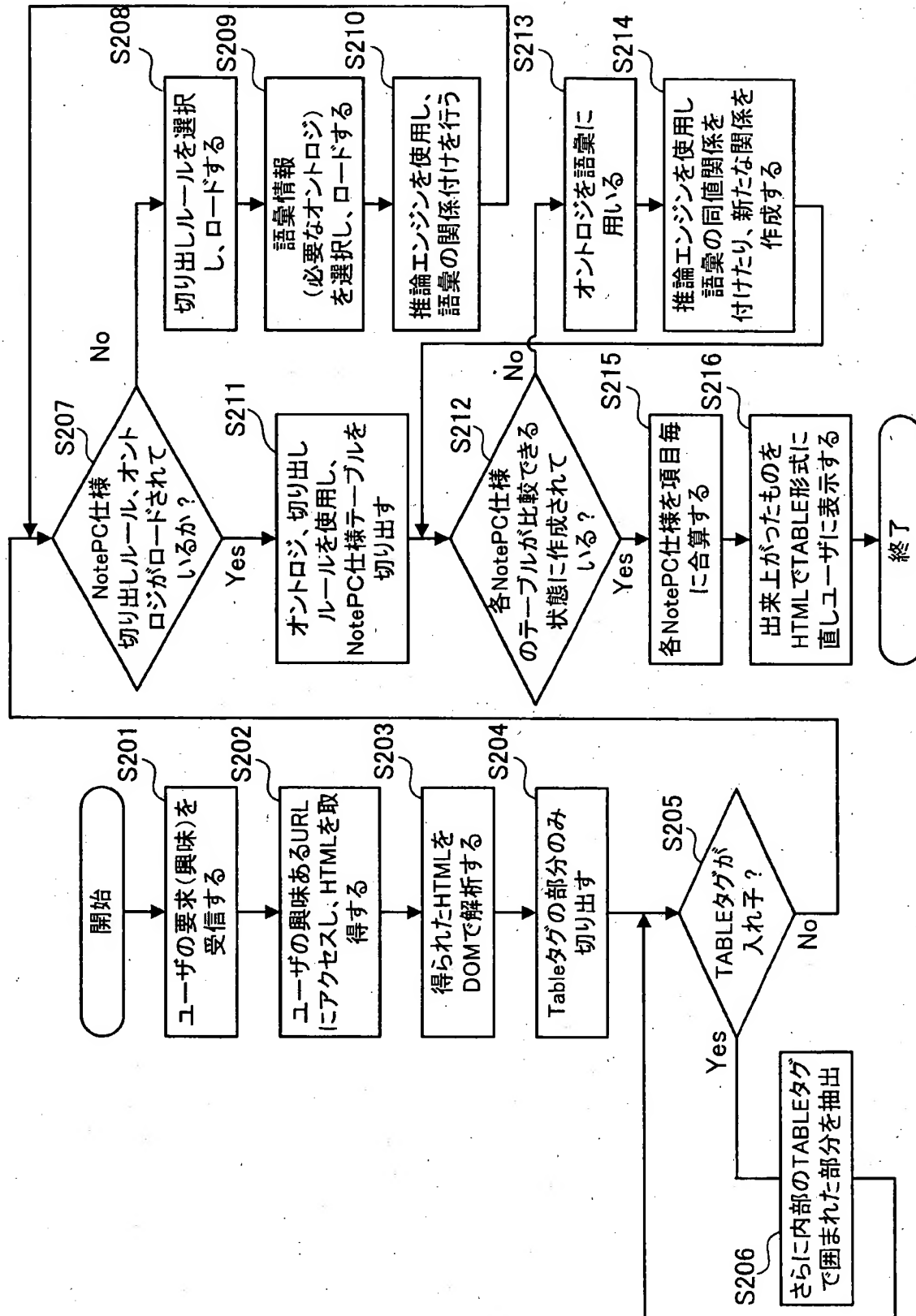
【図2】



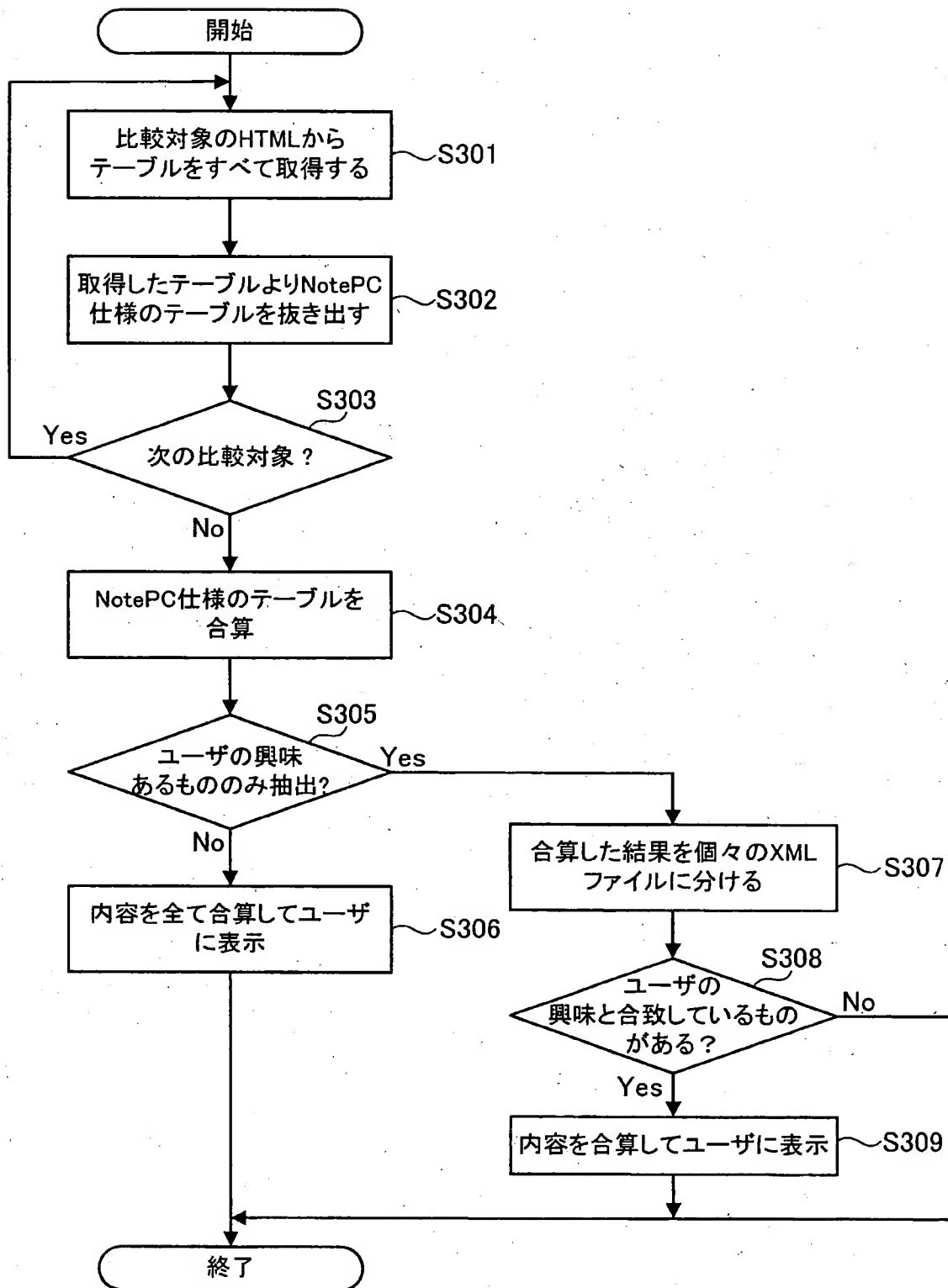
【図 3】



【図4】



【図 5】



【図6】

Order no.	M2638 J/F	M2699 J/F	M7802 J/F
プロセッサ	500MHz PPP PC G3	600MHz PPP PC G3	600MHz PPP PC G3
二次キャッシュ	256KB/500MHz	256KB/600MHz	256KB/600MHz
メモリ(PC100 SDRAM)	128MB(640MBまで拡張可能)	128MB(640MBまで拡張可能)	256MB(640MBまで拡張可能)
システムバス	66MHz	100MHz	100MHz
ハードディスクドライブ	約15GB Ultra ATA	約20GB Ultra ATA	約20GB Ultra ATA
光学式ドライブ	CD-ROM	DVD-ROM/CD-RWコンボ	DVD-ROM/CD-RWコンボ
ディスプレイ	12.1インチ(対角)TFT XGA	12.1インチ(対角)TFT XGA	14.1インチ(対角)TFT XGA
FireWire(IEEE 1394)	400Mbpsポート×1基		
USB	2基(各12Mbps)		
グラフィックスサポート	ATI RAGE Mobility 128(8MB SDRAM)		
VGAおよびコンボシットビデオ出力	VGAビデオ出力ポート(外部ディスプレイ/RGBプロジェクターとのビデオミラーリング用)		
コンボシットビデオ出力	コンボシットビデオ出力(AVポート経由でテレビ/AVプロジェクターに出力。別売のB社AVケーブルが必要)		

【図7】

ノートPC 23				
モデル・タイプ	2647-6RJ	2647-2RJ	2647-9JJ	2647-5JJ
本体寸法	304×250×33.1 mm			
質量 (バッテリー・バック、ベイ デバイス含む)	2.3kg			
CPU	モバイル CPU III 1GHz-M	モバイル CPU III 2.0GHz-M		
二次キャッシュ	512KB(CPUに内蔵)			
チップセット	KENNW 30MP			
RAM標準/最大※1	128MB(PC-133 SDRAM)/1,024MB			
RAMスロット(空き)	2(1)			
ビデオ・チップ(容量)	S3 SuperSavage IXC (AGP 4X) 16MB			
ディスプレイ (サイズ・ドット・発色) ※2	14.1V型TFT液晶 (1,024×768ドット、1,677万色)	14.1V型TFT液晶 (1,400×1,050ドット、1,677万色)		
外部接続時 (ドット・発色)※3	1,600×1,200ドット、1,677万色			
FDD※4	3.5型(1.44 MB/720 KB)(出荷時に同梱。使用時はウルトラベイ2000に装備)			
HDD※5	20GB	48GB		

【図8】

A社ノートPC - 仕様				[B社PC23 製品仕様]			
タイ プ・モ デル	M2638 J/F	M2699 J/F	M7802 J/F	2647-6RJ	2647-2RJ	2647-9JJ	2647-5JJ
プロ セッ サ	500MHz PPP PC G3	600MHz PPP PC G3	600MHz PPP PC G3	モバイル CPU 1GHz-M	モバイル CPU 1GHz-M	モバイル CPU 1.20GHz-M	モバイル CPU 1.20GHz-M
メモ リ	128MB (640MBまで 拡張可能)	128MB (640MBまで 拡張可能)	256MB (640MBまで 拡張可能)	128MB(PC-133 SDRAM)/1,024MB	128MB(PC-133 SDRAM)/1,024MB	128MB(PC-133 SDRAM)/1,024MB	128MB(PC-133 SDRAM)/1,024MB
ディ ス ク レ イ	12.1インチ(対 角)TFT XGA	12.1インチ(対 角)TFT XGA	14.1インチ(対 角)TFT XGA	14.1V型TFT液晶 (1,024×768ドット、 1,677万色)	14.1V型TFT液晶 (1,024×768ドット、 1,677万色)	14.1V型TFT液晶 (1,400×1,050ドット、 1,677万色)	14.1V型TFT液晶 (1,400×1,050ドット、 1,677万色)
ハー ド デ ィ ス ク ド ラ イ ブ	A社 約15GB Ultra ATA	約20GB Ultra ATA	約20GB Ultra ATA	20GB	20GB	48GB	48GB
シ ス テ ム ソ フ ト ウ ェ ア	A社 OS X version 10.1.2、Mac OS 9.2.2	A社 OS X version 10.1.2、A社 OS 9.2.2	A社 OS X version 10.1.2、A社 OS 9.2.2	XXX PX Professional	XXX 2002 Professional	XXX PX Professional	XXX 2002 Professional

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 例えばWeb上に公開されている様々な領域のカatalog等を、自動的に切り出す。

【解決手段】 ユーザの興味に関する情報を受信するユーザ要求受信部31と、受信した情報に基づいて、複数のサイトからHTML文書を取得するHTML取得部32と、取得したHTML文書に対して切り出し処理を施すための切り出しルールを提供する切り出しルール処理機構41と、受信した情報に基づいてオントロジを読み出し、語彙情報を得る語彙情報処理機構42と、公理ルールに基づいて推論演算を実行する推論処理機構43と、取得したHTML文書に対し、切り出しルール処理機構41の切り出しルール、語彙情報処理機構42からの語彙情報、推論処理機構43の推論演算に基づき、HTML文書のタグを頼りに抽出データオブジェクトを取り出す抽出位置情報特定部33とを含む。

【選択図】 図2

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2002-218740
受付番号	50201108851
書類名	特許願
担当官	佐々木 吉正 2424
作成日	平成14年11月29日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	390009531
【住所又は居所】	アメリカ合衆国10504、ニューヨーク州 アーモンク ニュー オーチャード ロード
【氏名又は名称】	インターナショナル・ビジネス・マシーンズ・コーポレーション

【代理人】

【識別番号】	100086243
【住所又は居所】	神奈川県大和市下鶴間1623番地14 日本アイ・ビー・エム株式会社 大和事業所内
【氏名又は名称】	坂口 博

【代理人】

【識別番号】	100091568
【住所又は居所】	神奈川県大和市下鶴間1623番地14 日本アイ・ビー・エム株式会社 大和事業所内
【氏名又は名称】	市位 嘉宏

【代理人】

【識別番号】	100108501
【住所又は居所】	神奈川県大和市下鶴間1623番14 日本アイ・ビー・エム株式会社 知的所有権
【氏名又は名称】	上野 剛史

【復代理人】

【識別番号】	100104880
【住所又は居所】	東京都港区赤坂5-4-11 山口建設第2ビル 6F セリオ国際特許事務所
【氏名又は名称】	古部 次郎

【書類名】 出願人名義変更届

【あて先】 特許庁長官殿

【事件の表示】

【出願番号】 特願2002-218740

【承継人】

【識別番号】 592073101

【氏名又は名称】 日本アイ・ビー・エム株式会社

【承継人代理人】

【識別番号】 100086243

【弁理士】

【氏名又は名称】 坂口 博

【連絡先】 046-215-3325

【承継人代理人】

【識別番号】 100091568

【弁理士】

【氏名又は名称】 市位 嘉宏

【連絡先】 046-215-3325

【承継人代理人】

【識別番号】 100108501

【弁理士】

【氏名又は名称】 上野 剛史

【連絡先】 046-215-3325

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 029193

【納付金額】 4,200円

【提出物件の目録】

【包括委任状番号】 0004471

【包括委任状番号】 0004470

【包括委任状番号】 0208086

【プルーフの要否】 要

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2002-218740
受付番号	50201553780
書類名	出願人名義変更届
担当官	佐々木 吉正 2424
作成日	平成15年 1月 9日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成14年10月16日
【承継人】	
【識別番号】	592073101
【住所又は居所】	東京都港区六本木3丁目2番12号
【氏名又は名称】	日本アイ・ビー・エム株式会社
【承継人代理人】	申請人
【識別番号】	100086243
【住所又は居所】	神奈川県大和市下鶴間1623番地14 日本ア イ・ビー・エム株式会社 大和事業所内
【氏名又は名称】	坂口 博
【承継人代理人】	
【識別番号】	100091568
【住所又は居所】	神奈川県大和市下鶴間1623番地14 日本ア イ・ビー・エム株式会社 大和事業所内
【氏名又は名称】	市位 嘉宏
【承継人代理人】	
【識別番号】	100108501
【住所又は居所】	神奈川県大和市下鶴間1623番14 日本アイ ・ビー・エム株式会社 知的所有権
【氏名又は名称】	上野 剛史

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [390009531]

1. 変更年月日 2002年 6月 3日

[変更理由] 住所変更

住 所 アメリカ合衆国10504、ニューヨーク州 アーモンク ニ
ュー オーチャード ロード

氏 名 インターナショナル・ビジネス・マシーンズ・コーポレーショ
ン

出願人履歴情報

識別番号 [592073101]

1. 変更年月日 1992年 4月 3日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都港区六本木3丁目2番12号

氏 名 日本アイ・ビー・エム株式会社